

令和元年度 第3回振興審議会 議事録

- ◆日時 令和2年2月17日（月）午前10時
- ◆場所 市役所3階庁議室
- ◆委員 出席15名、欠席3名
- ◆事務局 みらい戦略課長、同補佐、企画調整係長、職員
総合防災課長、総務課技術調整主幹

〈次第〉

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 協議（説明：企画調整係長）
 - （1）第6次南陽市総合計画基本構想（案）について 資料1-1、1-2
 - （2）南陽市まち・ひと・しごと創生総合戦略
（1年延長案）について 資料2
 - （3）南陽市国土強靱化地域計画（案）について 資料3
 - （4）その他
 - ・今後のスケジュール
- 4 閉会

《報告》

南陽市青年会議所の飯塚委員に代わり北野委員が就任（理事長交代のため）

《意見等》

- （1）第6次南陽市総合計画基本構想（案）について

◆柴田 孝 会長

・協議の内容が3つあるので項目ごとに3名ほど意見をいただき最後に全員に意見をいただきたい。

◆島津 善衛門 委員

- ・骨子の順序が将来都市像、理念の順番の方がいいのではないか。
- ・市民意識調査の回収率が40.1%だが、残りの60%の意見はどうなるのか。

事務局

- ・骨子の順番については第5次総合計画や近隣自治体のまとめ方を参考にしてるのでご了承いただきたい。
- ・回収率が高いほど信頼性が高まるが、2,000件の調査で40%程度の回収率であれば統計学的には誤差の範囲である。

◆山口 裕昭 委員

- ・市民ワークショップでの意見でPR不足という意見が出ていた。PR不足は以前から言われていたが、今後PRしていく上で今までどのようなことをやっていたか現行計画での現状把握することができないと解決できない。今までのプロセスを教えていただきたい。

事務局

- ・ご指摘のとおり、現状を分析し、どう施策を展開していくかが重要になってくる。基本構想は市民の考えや状況を踏まえて方向性を示すもの、PR不足が解消されているという理想に近づくためにどうするか、バックキャストिंगとして基本計画や3ヵ年実施計画に落とし込んでいきたい。

柴田会長

- ・南陽市の場合は予算の問題もある。ワークショップに若い人が多数参加しているのでSNSなどを使うなど新たな戦略を打っていくのもいい。

事務局

・第5次総合計画は来年度までなので、総括はこれからになる。現状と課題を共有するためにアンケートやワークショップを開催した。どの市町村でもPR不足という項目は高い数値が出る傾向がある。行政が情報発信することは重要だが、今は市民ひとりひとりが情報発信ツールを持っている時代なので、若い人や直売する農業者などが自分で発信していけばより効果的な情報発信源になるかもしれない。行政が一般市民を巻き込んでいければいい。

◆高橋 弘 委員

- ・何をPRしていくかを絞っていく必要がある。南陽市だけでなく県全体がPR不足。

柴田会長

- ・何をPRするかが大事。暮らしをPRする事例もある。ワイン、熊野大社などをつないで南陽市の魅力をPRしていく方法も大切である。

◆佐藤 廣志 委員

- ・少子高齢化、人口減少の中で経済成長をしなければいけない。何をやるかよりも何をやらないか、絞ることが大事。熊野大社もSNS等ですごい努力をしたと思う。北野さんを中心としたSNS部隊を作るのもいい。逆に高齢者が元気なので若い人をターゲットにするよりもシニアをターゲットにするのもいい。具体的な計画にどう盛り込まれるのか楽しみにしている。

◆北野 淑人 委員

- ・PR不足の話や、バックキャストの話があり、何年か後の目標に向けてPRしていくということがあるとすると、総括の際にも市民の意見を聞くことができればいいと思う。

(2) 南陽市まち・ひと・しごと創生総合戦略（1年延長案）について

◆多田 良宏 委員

- ・振興審議会で総合戦略の1年延長について承認された場合、市民向けの発信方法や手続きについてはどうなるのか。

事務局

- ・振興審議会の後、庁議決定を経てホームページで発信していきたい。

柴田会長

- ・よく調べると南陽市が住みやすいことが分かり、南陽市への移住が増えていくと思う。就農や空き家施策など、住んでもらえる仕組みを作らなければいけない。

◆高橋 善一 委員

- ・計画がすべてを網羅しているが、光るものがない。その中で具体的に新規就農が15人から20人になったということは農業関係者として身が引き締まる思いだ。

柴田会長

- ・皆さんに示す場合に様々な人がいるので全体を網羅した形になっている。高橋委員からあった農業施策について何か策はあるのか。

事務局

- ・新規就農の考え方には、親元就農やUターン就農した人も含まれる。全く南陽市に住んだことがない人ばかりが対象ではないのでご理解いただきたい。
- ・南陽市の強みは農業。県内でも農業は強みになる。果樹、田んぼ、畜産など複合経営をしている。複合経営で経営を安定させる。情報発信をしてダイレクトな販売のシステムを構築する。集団で農協を通した供給も果たしていく。ポテンシャルが高い農業ができるので第6次総合計画では農業はより特化していきたい。

柴田会長

- ・若い人が農業や林業に従事するためにはインターンシップが必要になってくる。10年先の絵の中に描いてほしい。1次産業が主役になってもらいたい。

◆高橋 善一 委員

- ・南陽市の農作物は県の品評会でも最優秀賞も何名かとっている。親元就農にも力を入れていただきたい。
- ・新しく採用される地域おこし協力隊は南陽市に思いをもってきているので審議会のような場で聞いてみたい。
- ・空き家バンクを利用して60代の人が農業に取り組んでいる。60代でも農業ができるので60代の人にも新規就農に参入していただきたい。

事務局

- ・新規就農については年齢は関係ないのでバックアップしていく。
- ・空き家バンクについても利用しやすいように提案していきたい。
- ・地域おこし協力隊については、どんな仕事がしたいかのニーズを聞き、果樹を作りたい、6次化に挑戦したいなどのオーダーに基づき今回の募集をかけた。協力隊のバックアップ体制を整え、3年後に自立できるような環境にしたい。

◆沖田 志保 委員

- ・アンケートの結果について、年齢による割合が知りたい。若い人の結果が悪いようだ心配。
- ・置賜圏内のアンケートを集計し市町村間の比較をできたらいい。

柴田会長

- ・南陽市の企業や農家は優秀なところが多い。市内でのPRがあると思う。

(3) 南陽市国土強靱化地域計画について

◆高橋 篤 委員

- ・市役所の両脇が田んぼであり分断されているように感じる。
- ・南陽市は災害に強い場所なのでそこを踏まえて強靱化計画を作ってもらいたい。
- ・耐震化が100%、長寿命化が未着手というのは本当のところはどうか。

事務局

- ・耐震化は建物の構造部材の耐震化比率。南陽市の小中学校はすべて耐震化率100%。赤中、沖中は築40年が経過しており、トイレの洋式化、空調やバリアフリー化が整っていないところがある。正確な数値を抑えていないため長寿命化率が未着手になっている。
- ・防災道路を整えるうえで、蒲生田関口幹線を計画している。この道路は防災上重要な道路。都市開発上も重要な道路になる。

◆高橋 善一 委員

- ・昨年の台風19号、20号で農業被害が4000億円出ている。全国200カ所の川が氾濫した。沖郷、梨郷はもう少しで氾濫しそうだった。河川の中の掘り下げ、支障木の撤去、河川の取り次ぎ部を整備してもらいたい。

事務局

- ・南陽市の河川は、国、県の管理。南陽市として河川の整備を要望していく。市長から知事に直接の要望も行う。

◆和田 廣 委員

- ・幅広く記載されるのは仕方がないが、具体的な重点施策を示すことができないか。
- ・産業、経済について、具体策の記載がないのが不安。1次産業、2次産業は大事であり力を入れていただきたい。
- ・夢、希望、感動、喜びが生きていく上で大事である。スポーツは感動、学びな

ど大きな役割を果たす。すべては人であり、自信を持たせる、生きる力、忍耐力をつけるなど、充実した人生を送ること、さらには健康が大事になる。次代を担う子供たちをどう育てていくか。スポーツ施設を充実させて欲しいと願っている。陸上連盟からも陸上競技場の要望が出ており、スポーツの意義を考え、6次総合計画においても触れてほしい。

◆佐藤 廣志 委員

- ・高速道路整備に伴うストロー減少により、南陽市は昼の人口が減る。それならば、夜だけ住んでもらうのもいいのではないか。空き家もあるし、温泉もある、飲み屋もある。働きに行くのは市外で住むのが南陽市という施策もいのではないか。
- ・SDGsは南陽市の企業にはハードルが高い。南陽市が率先して行い、17のうちいくつかを企業に任せるのはありだと思う。
- ・冬に使える陸上競技場、スポーツ練習場があれば、市外、県外から人が集まってくる。人が集まればお金も落としてもらえる。是非整備してほしい。
- ・審議会で提案した具体的な施策が無いと、単なるあく抜きにしかならず参集した意味がない。
- ・一点集中でいいので是非やってもらいたい。

事務局

- ・農業が突出した強みである。また、産業分析では、電気機械、情報福祉、金属加工等が強み。強みを活かしていくことが6次総の理念である。
- ・特に教育、陸上競技場、スポーツ施設に関する提言については、前回は提案いただいた事項であり、事務局で引き取り、施策を上位に上げていきたい。

池田 めぐみ 会長代理

- ・他地域で災害があったときに山形に避難される方が多かった。その際に、南陽市の空き家の活用や陸上競技場が物資の輸送拠点になればいい。

◆小関 文典 委員

- ・どこに力を入れていきたいかを示していくことが大切である。
- ・学校教育は経済産業と深く結びついている。質の高い知識の生徒を作ることが大切で、企業と一緒にいい社会をつくって行くものである。
- ・国際理解を深めるとは、語学教育だけでなく、社会、国語、スポーツ、音楽など深い根を張っているの、そうした観点から国際的な視野を持つ人づくり

はいいと思う。

事務局

- ・どこに力を入れるかについては7つの目標が一つの事業にのみ関わるのではなく複合的に連鎖している。移住について考えると働く、子育て、教育、住まいなど様々なことが必要になってくるので、トータルで進めていくというのが6次総の考え方。それらにより基本理念に掲げるこの地域の新たな価値を高めていきたいと考えた。

◆小関 文典 委員

- ・市町村同報系防災行政無線とは何か。

事務局

- ・地区へのスピーカーを使った一斉放送の行政無線のこと。

◆鈴木 潤一郎 委員

- ・これから10年後を考えると、ここ数年で車の自動化が発達したり、AIが人のすることを代替してくれる世の中が訪れ、それにより高齢者でも活動する場が広がるので、どのようにAI等を活用するかをこれから皆で検討していかなければならない。

◆飯塚 道雄 委員

- ・前計画の総括から示すとよかったのではないか。
- ・総花ですと、前計画でできたものできなかったものが分からなくなるので、この計画期間に必ずやるものを色分けすべきである。
- ・人口を増やしていくことが大切であり、そのためには南陽市の最大のコンテンツである熊野大社の活用について一点集中で進めてもいいのではないか。

柴田会長

- ・KPIは今足りないものを未来に向かって補っていくもの。重点的なものを5つくらいに絞って未来に向けてここだけは絶対にやるというものが必要。

池田 めぐみ 会長代理

- ・総合計画（プラン）と総合戦略（ストラテジー）がありアクションにつながるはずだが、バラバラに感じる。それぞれがつながり、強靱化計画もどこにつながるかを明確にしていくべきである。変化を市民ひとりひとりに届けられることが大事であり念頭に置くべきである。今の時代は、広告より信頼（ツイッ

ター、インスタグラム等)、発信の仕方を考えていくことが、災害時にプラットフォームとして活用につながる場合もある。

事務局

- ・戦略を期間1年延長して、計画期間を合わせて、理念は一緒に方法論をK P Iで分けていく。
- ・検証は前回振興審議会で、現計画の達成度合い、市民意向調査の数値を報告させていただき、本日の資料をまとめている。時系列的でない部分もあるが、総括したものをグラフ化してきたが、もう少し分かりやすくしていく。

柴田会長

- ・市民とみらいワークショップのようなものを、産業界のリーダー、次世代の方を集めてワークショップ形式で議論して、市と産業界の施策の接点を計画に織り込んだ形にできるようにすると計画が生きてくると思う。
- ・南陽市は、若い人が未来を見据えて行動に移している。
- ・スポーツも非常に重要であり何らかの形で書き込むべき、イノシシ等の野生動物との共生も織り込んでいくべきである。

以上